

聖学院大学総合研究所 組織神学・伝道研究会及びラインホールド・ニーバー研究会共催
 2020年度第1回 組織神学・伝道研究会及びラインホールド・ニーバー研究会
 「キリストの弟子として生きる——ディサイプルス派の歴史と日本宣教」
 バートン・ストーンとキャンベル父子の運動について
 発題者：赤田 直樹

去る2021年2月22日（月）に組織神学・伝道研究会とラインホールド・ニーバー研究会の共催による研究会がzoomによって開催された。聖学院大学関係者を中心に計12名の参加者があった。発表者は聖学院教会牧師・聖学院みどり幼稚園園長の赤田直樹氏で、発表は「キリストの弟子として生きる～ディサイプルス派の歴史と日本宣教～」との主題の下に、特にその背景をなす「バートン・ストーンとキャンベル父子の運動について」であった。発題の内容は以下の通りである。

I. はじめに

1. 研究の概要について
2. 個人的な動機について

II. ディサイプルス派の歴史の概略について

III. 現存する教会と学校および諸施設

1. 旧「ディサイプルス派」の伝統のうち現存する教会と学校および諸施設
2. チャーチ・オブ・クライスト（キリストの教会無楽器派）の伝統のうち現存する教会と学校および諸施設
3. クリスチャン・チャーチ（キリストの教会有楽器派）の伝統のうち現存する教会と学校および諸施設

IV. バートン・ストーンとキャンベル父子の運動について

1. バートン・ストーンとキャンベルの運動について
2. トーマス・キャンベルと息子のアレクサンダー・キャンベルの運動について

V. 今後の展望について

1. 今後の研究に向けて
2. 周年記念に向けて

赤田氏は、旧ディサイプルス派の背景を持つ教会の出身で、聖学院大学で学び、献身後は滝野川教会の伝道師・副牧師を経て、15年に亘ってディサイプルス派の最も古い教会である秋田高陽教会の牧師を務め、2020年4月から聖学院教会の牧師に着任した。そのため、自ずからディサイプルス

派の歴史に関心を持つに至ったとのことである。

発表の内容は、旧ディサイプルス派と同じルーツを持つ日本における他のグループの動向や、ストーンやキャンベル父子の運動のより詳しい歴史の紹介で、全体としていろいろ新しく学ぶことができたのは大変良かったと言える（詳しくは紀要68号を参照）。ただ、2、3コメントを加えるならば、まず日本で既になされているディサイプルス派の研究について、もう少し丁寧に触れる必要があったのではないだろうか。またストーンとキャンベル父子の運動についても、その二つの運動の動向はよりはっきりしたとは言え、さらにその背景をなすアメリカの宗教的状況からの考察も必要ではなかっただろうか。というのも、ディサイプルス派が生まれた時代（1820年代から30年代）は、アメリカでは多くの新しい宗教集団が生まれた時代でもあるからである（たとえば、この時代にモルモン教なども生まれている）。またディサイプルス派の歴史に関しても、たとえば一時期バプテスト派との接近と離反があったが、それはディサイプルス派の考え方の一端が顕著に表れた出来事でもあり、そうした研究を深めることが今後求められていると言えよう。今後のさらなる研究を期待したい。



発表者：赤田直樹先生

（報告者：菊地 順 [きくち・じゅん] 聖学院大学政治経済学部チャプレン、特任教授）